



# いつ見れるかな



今日の全校集会で先週、7月3日に発行が開始された新紙幣についてお話ししました。以下、もう少し詳しく内容を紹介します。

まず、新1万円札の肖像画に選ばれたのは**渋沢栄一**（1840～1931）さんです。みんながよく知っている坂本龍馬（1836～1867）とほぼ同時代を生きた「近代日本経済の父」と称される人です。明治政府に招かれ、新しい国づくりに関わりました。その中の一つには、世界遺産となっている富岡製糸場の設立があります。また、東京商法会議所（現・東京商工会議所）、東京証券取引所といった多種多様な会社や経済団体の設立・経営に関わった。このように栄一は、銀行（みずほ銀行）を拠点に企業の創設・育成に力を入れて生涯に約500もの企業に関わり、約600の社会公共事業・教育機関の支援や民間外交に尽力しました。

5千円札は**津田梅子**（1864-1929年）さんです。明治の教育家で、女子専門教育の先駆者で江戸で生まれ、6歳で日本初の女子留学生として渡米しています。華族女学校に奉職し、再度渡米した後、現在の津田塾大学の前身、女子英学塾を開きました。当時は女性は良妻賢母、いわゆる良き妻、良き母として家庭で尽くすだけで良いという時代でしたが梅子は、女性の地位向上こそが日本の発展につながると信じ、女性の高等教育に生涯尽くしました。

そして、千円札は**北里柴三郎**（1853-1931年）さんです。「近代日本医学の父」と呼ばれる細菌学者であり、慶應義塾大学医学部初代学部長も務めました。破傷風菌の純粹培養、血清療法の開発、ペスト菌の発見など、多くの功績を残しました。

みんなにはこのような変化があった時に**「なぜ？」**と思い、**探求する気持ち**を持ってほしいと思います。



7月7日、昨日は七夕でした。七夕っていったいどんな日なのかその由来について少し紹介していきます。七夕は、織姫と彦星が1年に1度だけ、天の川で会える日とされています。次のような七夕（たなばた）に関する言い伝えがあります。みんなは、知ってるかな？

『昔あるところに、神様の娘の織姫と、若者の彦星がいました。織姫は機織りの仕事をしていて働き者。彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。やがて2人は結婚しました。すると、今まで働き者だった2人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなっていました。怒った神様は、2人の間に天の川を作って離してしまいました。悲しみにくれた2人は泣き続けました。それを見た神様は、前のようにまじめに働いたら、1年に1度だけ、2人を会わせてくれると約束しました。それから2人は心を入れ替えて一生懸命働くようになったのです。そして、2人は年に1度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が七夕とされるようになりました。』

特別支援学級で手作りの笹に願いを込めて短冊を飾っていました。校長先生も2枚書かせてもらいました。1枚は**「みんなの願いが叶いますよう」**もう1枚は**「止まり木のような学校になりますように」**です。みんなはどんな願い事をしたでしょうか。